

情報社会における国土・地域の成長と進化のあり方研究会 ～情報生産の場“情場”研究会～

講演概要（案）

■研究会の開催実績と講演概要（スピーカー敬称略）

回	スピーカー (役 職)	講演タイトル	講演概要（事務局で抜粋作成）	座長私論 政策分野等
1 回	① 梶原拓 (座長：健康医療市民会議 代表（元岐阜県知事）)	情報生産の場“情場”の考え方について	■研究会「テーマ」例や21世紀型社会資本キーワード「交流」に関するレクチャー ① 国土・地域の役割は知的生産力を高めることに変化。「交流」こそが活力の源泉。 ② 上記を踏まえた21世紀型社会資本体系の整備、指標づくり、「交流社会」を構築する人材養成が重要。 ③ 「交流」、「情報社会」、「情報生産の場“情場”モデル」の定義や理念を考えることが大切。 ④ 各地に知的生産の基地“情場”のモデルとなる交流拠点「 インターチェンジ・フロント 」＝「I（アイ）フロント」（交流前線基地）を配置することが重要。	
	① 白石秀俊 (国土交通省国土政策局 総合計画課長)	国土のグランドデザイン2050等について	■「国土のグランドデザイン2050」と国土形成計画等の改定に向けた調査審議等の説明 本格的な人口減少社会の到来や巨大災害の切迫等に対する危機意識を共有し、「 コンパクト+ネットワーク 」、「 小さな拠点 」、「 高次地方都市連合 」、「 スーパーメガリージョン 」等を推進。	
2 回	① 稲本隆壽 (愛媛県内子町長)	内子町における都市部との交流・体験に関わる活動について	■内子町における都市部との様々な交流・活動の取組状況に関する講演 ① 地域おこし協力隊の活用や大学との連携で 県外からの移住促進 に取り組んでいる。 ② 芝居小屋、村並み、棚田景観、山並み、町の駅等の地域資産で観光振興や農村体験等に取り組んでいる。 ③ ドイツ・ローデンプルグ市や沖縄・宜野座村と 姉妹都市交流 を行っている。 ④ 平成16年に 全国に先駆け道の駅 を整備、東京豊島区で内子フェア等も行っている。	①、③、④、 ⑥、⑦、⑧、 i
	② 小笠原伸 (白鷗大学教授)	新しい産業と都市・地域の成長に向けた「場」づくり	■地域は多様な知恵を集めるための「場づくり」の重要性に関する講演 ① 地域の魅力を「発見、評価、活用」する試み、都市戦略の観点から「街歩き」講義を実践。 ② 多様なライフスタイルが定着し、 クリエイティブな交流を行える「場」 を選ぶ時代。 ③ 人々が自由に交流する場作りが重要で、 カフェ、コワーキングスペース が役割を果たす。	④、⑤、⑦、 ⑧、i、iii
3 回	① 小川真誠 (特定非営利活動法人日本心身機能活性療法指導士会理事長)	認知症・うつ病改善センター「健康道場」について	■認知症高齢者対策やうつ病改善のための「健康道場」に関する取組事例発表 ① 老老介護から2人とも認知症になる認認介護への移行が予見され、予防と改善が急務。 ② 認知症戦略進む海外に対し、日本は大きく出遅れており、対策が急務。 ③ 認知症・うつ病改善センター である「 健康道場 」を開設し、絆の情場づくりを推進する必要。	③、i
	② 澤田潤一 (（公財）日本生産性本部 公共政策部長)	地方消滅～東京一極集中が招く人口急減	■日本の将来人口の予測と減少要因の分析や直面する課題や対応方向に関する講演 ① 2008年の1億2,808万人をピークに減少に転換し、2050年に9,708万人となる見通し。 ② 上記要因は20～39歳 若年女性人口の減少 と 人口の社会移動 (東京一極集中)で対策が必要。 ③ 人口の「 自然増対策 」(若年世代の就労・結婚・子育て支援)と「 社会増対策 」(若者に魅力のある地域拠点都市への投資と施策の集中等)の同時推進が必要。	④、⑦、i、 ii
4 回	① 曾根原久司※ (NPO法人えがおつな がて代表理事)	日本の田舎は宝の山～農村資源を都市のニーズと結べば10兆円産業が動き出す～	■ご自身の1ターン起業経験を踏まえた、農村資源の経済価値や取組内容に関する講演 ① 山梨の増富地区(北杜市)で 耕作放棄地の再生 (「 開墾 」)を大企業のボランティアを活用。 ② 田畑を再生し、酒米を作った地酒を東京で販売。某不動産会社の居住者による農業体験等。 ③ 2015年以降、農業は生産性向上型農業、付加価値型農業、ライフスタイル農業の3つの分類に分かれると思う。20年前からすごい勢いで成長しているオランダに注目。	①、④、⑥、 ⑦、i
	② 望月洋介 (日経BP執行役員電子・ 機械局長)	リアル開発会議～オープンイノベーションの場を日本に根付かせる～	■日本の「情報戦」の現状や異業種連携の突破口としての「リアル開発会議」に関する講演 ① IT分野では韓国存在感。日本の技術は世界に伝わってない。 多国語で情報発信 する必要。 ② 異業種連携の場がないため、テーマ毎に開発参加者を募る「 リアル開発会議 」を構築。	④、⑦、⑧ ii、 iii

回	スピーカー (役職)	講演タイトル	講演概要 (事務局で抜粋作成)	座長私論 政策分野等
5 回	① 三栖邦博※ (一社)ニューオフィス 推進協会 会長)	クリエイティブ・オフィス運動と 日経ニューオフィス賞	■経営とオフィスを融合させた「クリエイティブ・オフィス」等に関する講演 ① 組織目標の達成に向け、加速装置となる空間でICTツール等を兼ね備える価値創造フィールド。 ② お互いの仕事の様子が見え散歩スペースなどで知的創造性やコミュニケーションを増加。	④、⑤、⑧、 ii、iii
	② 綿石隆人 (JTBコーポレートセール スソーシャルソリューション地域交流推進局長)	企業が事業としていかに社会や地 域課題解決に貢献できるか=CSV、 観光×環境分野、農山村活性分野 の取り組み	■事業を通じて社会や地域課題解決に貢献にチャレンジしている取組事例発表 ① 地域が持つ様々な課題を「旅の力」を活用し、集客を促すことで地域活性化を図る。 ② 旅行者に対する情報発信や商品提供と地域における中間支援組織へのコンサルティングや人財育成等が必要	①、④、⑥、 ⑦、⑧、i、 ii
6 回	① 宮原秀夫※ (一般社団法人ナレッジ キャピタル代表理事)	新しい価値創造拠点 ナレッジ キャピタル	■新しい価値創造拠点「ナレッジキャピタル」の取組事例発表 ① ナレッジキャピタルとは「知」が集積・融合し、新たな『知的価値』を創出する『場』。 ② ナレッジキャピタルにより、「集客効果」、「相乗効果」、「宣伝効果」が得られる。 ③ 人の交流の場(サロン機能)、The Lab.～みんなで世界一研究所～、可視化センターの3つの機能でサービス提供。	①、③、④、 ⑤、⑦、⑧、 ii、iii
	② 高橋豊典※ (オリックス不動産執行 役員 西日本事業本部長)			
7 回	① 比嘉邦彦※ (東京工業大学大学院イ ノベーションマネジメント 研究科 教授)	クラウドソーシングが拓くオー プンリソース社会	■クラウドソーシングの海外事例紹介とクラウドソーシングがもたらす社会変革に関する講演 ① クラウドソーシングで品質、コスト(5分の1)、スピード面(5倍)と大きな成果期待。 ② アメリカではオバマ大統領指示(2010年)で政府も企業も大いに活用。 ③ 生産者と消費者の間で情報の非対称性により稼いでいた企業の存在意義が低下。 ④ クラウドソーシングの普及で「アイデア」が最も重要に。発注者の目利きも大切。	④、⑤、⑧、 ii、iii
	② 吉田浩一郎※ (株式会社クラウドワー クス 代表取締役社長 CEO)	クラウドソーシングによって激変 する企業経営と働き方	■クラウドソーシングによって激変する企業経営と働き方に関する講演 ① 国家・企業・個人が横並びになり、個人パワーが国家を揺るがし、企業が国家を選択する時代。 ② クラウドワーカーの約8割が東京以外で受注、場所にとらわれない働き方を実現。 ③ 宮崎県日南市と提携、地元の歴史的建造物をコワーキングスペースに改装。	④、⑤、⑧、 ii、iii
8 回	① 小松崎 常夫※ (セコム 常務執行役 員)	セコムグループ 事業概要とサー ビスイノベーション ～社会の困りごとを解決する未来 へのアプローチ～	■社会の困りごとに情報技術等を駆使する取組事例発表 ① セキュリティ、防災、情報通信、国際、保険、メディカル、不動産、地理情報の8分野で「社会の困りごと」の解決に取り組む。 ② 情報の「トレサビリティ」と「アカウントビリティ」に関する認識が重要。	⑤、⑧、ii、 iii
	② 大南信也※ (徳島県神山町 NPO 法人グリーンバレー理事 長)	神山プロジェクト ～創造的過疎から考える地方創生 ～	■人財誘致で地方創生にチャレンジしている取組事例発表 ① 町の将来にとって必要と思われる「働き手」、「担い手」を逆指名。 ② 「ワーキンレジデンス」で商店街をデザイン。創造性を持った人の集結。 ③ 地方創生は「自然派生型」、「Uターン型」、「Iターン型」に分類される。特に情報関連の出身者に茶熊臆した「Iターン型」の可能性は期待される。	③、④、⑥、 ⑦、⑧、i、 v
9 回	① 脇濱直樹 (ダイワハウス工業 大 阪都市開発部 企画部 企 画グループ長)	公的用地を活用した官民連携事例 ～晴美台エコモデルタウン創出事 業～	■学校跡地を活用したニュータウン取組事例発表 ① 堺市の学校跡地をニュータウンとして再生する試みで周辺住民の賛同を得て実現。 ② 堺市の補助等を活用して、各住宅やまちの共用部のエネルギー自給。 ③ 一部の地域(京都市、那覇市等)の物件は首都圏住民の購入(セカンドハウス等)も目立つ。	④ ⑤、i
	② 曾田朋恵 (野村不動産 商品開発 部 課長代理)	持続可能な街づくり プラウド船 橋での取り組み	■大規模工場跡地を活用したまちづくり取組事例発表 ① 街全体で東京電力からの一括購入、省エネアドバイスレポートの送付等で光熱費を抑制。 ② 街づくり協議会を組成し、街づくりの主体を住民に戻すための各種施策を実施。	③ ⑤
10 回	① 伊藤滋 (国土計画協会 会長)	東北の復興に必要な情報とは	■東日本大震災被災地域の復興状況や課題に関する講演 ① 女川、大槌、山元、南三陸等のまちは、復興に向けて頑張っている。 ② 「コンクリート」は震災に対して有効に機能したことが証明されたと認識している。	

注：※印のスピーカーはゲストスピーカー